



## 薬価改定の頻度の見直しについて

- 薬価改定がより頻回に行われると、薬価の歪が拡大し、薬価が非常に不安定なものとなる。
- 調整幅2%の下で医療機関に逆ざやが生じている問題、また、大手薬局チェーンや大規模病院と中小の医療機関との間で購買力/購入価格に大きな格差を生じているといった状況の中で、より頻回に薬価改定を行うことはこれらの問題を更に拡大させる。
- また、不適切な取引慣行を改善しないまま、頻回に薬価改定を実施すると、市場に深刻な混乱をもたらすことが予想される。
- 頻回の薬価改定はスパイラルな価格下落を加速し、投資先としての日本市場の魅力が一層失われることになる。
- 現行の医薬品流通の実態および改定ルールの下で、より頻回に薬価改定を行うことは現実的ではない。